

目的 前回、幼稚園児を対象にハンバーグの摂取状況・イメージ・栄養摂取量について調査し、その結果を報告した。今回は、対象を児童(小学校高学年)とし、両者のイメージ・意識の違い等について比較・検討した。

方法 昭和58年6月19日～6月30日の期間に岐阜市内の児童50名を対象として、イメージの測定・摂取形態及び食生活の意識について調査し、クラスター・アナリシス(cluster analysis)により、アンケート調査の解析を試みた。尚、調査の回答は児童の母親に依頼した。

- 結果 ①幼稚園児をもつ母親はハンバーグに對し、体のために悪く、便利で、若者向きというイメージを、また、児童(小学校高学年)をもつ母親はすべてに對し平均的なイメージを持っていた。
- ②幼稚園児・児童ともに加エハンバーグと比較し、手作りハンバーグの方がおいしいとされていたが、幼稚園児をもつ母親とくらべ児童をもつ母親はハンバーグを手作りにする回数が少なく、手作りに對しての意識が低かった。
- ③栄養所要量と栄養素摂取量を比較した結果、幼稚園児は全般に所要量を上回っていたが、児童は脂肪を除くすべての栄養素が所要量を下回っていた。